身近な雑かん木（5）　ウツギ

NPO法人自然観察大学　岩瀬　徹

日当たりのよい林縁，台地の開けた斜面などに生えるユキノシタ科の落葉低木。畑の境木として，あるいは垣根，公園などにもよく植えられる。茎は根元から群がって立ち，高さ2，3mになる。細い枝が撓うように伸びる。その形は灌木の名にふさわしい。樹皮は暗褐色。落葉季には茎の先端に2個の仮頂芽があり，枝の途中には対生する側芽があって越冬する。茎は中空で，これがウツギ（空つ木）の語源とされる。

葉はほぼ対生，枝全体が一見羽状複葉を思わせるが，葉柄の基部には芽があって単葉であることがわかる。葉の表裏には毛（星状毛）が密生しざらつく。

5，6月ごろ，枝先に花序をつけ全体が白色におおわれる。これが陰暦4月（卯月）に当たるのでウノハナとも呼ばれる。がくの基部はお椀状，がく片は5，花弁は5，雄しべは長短5個ずつの10個，雌しべは1個で花柱は3～4個。がくや花弁の外側，花柄には星状毛が密生する。花糸（雄しべの柄）には白い翼のあるのが特徴。果実は球形で上面は平ら，花柱は遅くまで残る。秋に熟すと果皮が裂開し，黒い種子が散布する。

ウツギの名の付く種類はいろいろある。マルバウツギ，ヒメウツギなどは同じウツギ属だが，ツクバネウツギ，ハコネウツギ，タニウツギなどはスイカズラ科，他にミツバウツギ（ミツバウツギ科），フジウツギ（フジウツギ科），コゴメウツギ（バラ科）などというのもある。花の印象ががウツギを思わせることから派生したものであろうか。

写真－1　畑の境木とされたウツギ

写真－2　茎の切り口，中空。

写真－3　枝に着く葉，一見複葉を思わせる。

写真－4　花序を着けた枝

写真－5　花，雄しべの花糸には翼がある

写真－6　果実，花柱が残る

写真－7　ウツギの名のつく木
マルバウツギ（ウツギ科）

写真－8　ウツギの名のつく木
タニウツギ（スイカズラ科），日本海側の山地に多い。